

特集 ゆけ! みんなの森を守るため

連続テレビ小説『あんぱん』(NHK)が、2025年春から放映されます。ドラマのモデルは、アンパンマンを生み出したやなせたかしさんとその妻・暢さんです。やなせさんの父方のご実家は、高知県香美市香北町にありました。

香美市には、四国で1番美しい山とされる三嶺や、たくさんの生き物が棲む物部川があり、人々に豊かな恵みを与えています。

では、このような自然は、いったいどのような活動で守られているのでしょうか。やなせさんが生前、香美市を思っ生み出したキャラクターと一緒にパトロールしてみましょう。

〈さんれい さんちゃん〉

香美市物部町の登山者に人気のある西日本を代表する山「三嶺」をテーマにデザインされました。アウトドアに長けた登山家。どっしりとしてちょっとのことでは動じない。さんちゃんのことを、みんなが頼りにしているそう。



©やなせたかし

〈さんれい さんちゃん〉と行く

三嶺の森を守れ!

見守り、育てる森

2024年11月。「三嶺の森をまもるみんなの会」(以下、「みんなの会」)主催により、三嶺の森のシカ食害について学ぶ青空教室が行われました。

午前8時半に香美市役所に集合し現地向かいます。参加したのは香美市のエコクラブ、ガールスカウト、高知商業高校などの生徒とそのお父さん、お母さんで約30名。べふ峡温泉から10分ほどの場所にある中尾谷の駐車場までバスで移動しました。「みんなの会」代表の依光良三さんから説明を受けた後、2005年の大雨で崩れた中尾谷で、シカのあしどりを観察する1日が始まりました。

三嶺ってどんな場所?

徳島県と高知県にまたがる三嶺は、高さ1,894メートルの高知県で1番高い山です。正式な呼び方は「みうね」ですが、高知県では「さんれい」と呼ばれ親しまれています。晴れた日には、遠くの山々や海まで360度を見わたせる頂上からの景色や、山中に生える可憐な草花を楽しみに、多くの登山客が訪れます。たくさんの生き物が生息しており、珍しい植物も見ることができる貴重な場所です。なかでもミヤマクマザサやコメツツジなどは、かつて見事に群生していましたが、現在は枯れて白い枝が目立つように。どうしてこんなことになってしまったのでしょうか。

シカが自然環境を壊す!?

その原因の1つが、近年急に数を増やした野生のシカです。もともと三嶺に棲んでいたシカに加え、別の場所から移動してきたものが住み着いて仲間を増やし、あっという間に大きな群れをつくりました。シカは1日5kg~6kgの生の葉っぱを食べるといわれており、三嶺の草や木はみるみるうちに食べ荒らされてしまいました。シカは落ち葉まで食べてしまうので、土がむき出しになったところは、雨が降った時に土が水と一緒に流れ出し荒れ果ててしまいます。こうなると、森林が元どおりになるためには長い時間がかかってしまいます。

三嶺ではシカの捕獲などによって、被害は少しずつ減ってきましたが、これまでの被害が原因となり、斜面からの土の流出が深刻化しています。困ったことにシカは大抵の草木を好き嫌いせずに食べるため、シカがいる限り被害がゼロになることはありません。

みんなが参加できるしくみづくり

傷つき痛んだ山の様子にショックを受けた大人たちによって、2007年に「みんなの会」は立ち上げられました。「みんなの会」は立ち上げ以来、三嶺の貴重な植物をシカに荒らされないように柵で守ったり、草や木が枯れてしまった場所に新しい苗木を植えた

シカ食害の前後



ミヤマクマザサやコメツツジが青々と茂る(2002年)。



シカ害で枯れて白くなった枝が目立つ(2021年)。



空気がきれいで気持ちいいね。

シカの気配と一緒に、土砂崩れの怖さや自然の楽しさも感じられる貴重な体験。

シカのフンを見つけて、子ども達は興味津々。



こんなにいっぱい?シカがたくさんいる証拠です。



これがシカのフン?コロコロしていて、まるでチョコボールのようです。



においては?表面が乾いたフンはほとんどにおいがしません。

獣害対策として、くくり罠を使用する方法もあります。詳しくは「もりりんNo.6」特集ページをご覧ください。

三嶺の森をまもるみんなの会

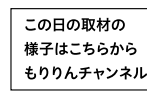
090-4338-5209(代表・依光)
<http://sanreiminnanokai.web.fc2.com/>
さまざまなNGO・NPOが集結し、2007年に結成。以降、シカの食害によって荒廃した三嶺の自然林の保護と再生に取り組んでいます。



初代メンバー・依光さん(右)世代から押岡さん(左)世代へ活動は受け継がれています。



Instagram QR



YouTube QR